

174

こんにちは。塾長の大井です。

3期生受験戦記38回です。

1月31日。出陣式。

前々から予告していたものの、明日いよいよ受験だという前夜の空気は、名状しがたいものでした。

ただ単純にいよいよ本番だという機(とき)の熱がそうさせているのではありません。何しろTOP設立以来、喜怒哀楽を分かち合ってきた生え抜き中の生え抜きです。彼らと私たちが共にしてきたものはあまりにも大きなものでした。

初めに子どもたちが1人ずつ、これまでと、そして明日への想いを語ります。

まずは転塾後、TOPでAさんと出逢い、やり切らないことがあったものの楽しんでいたUさんです。

「私は塾を移って来たけど、前の塾ではみんなクラスが上がること

ばかり考えていました。クラスが上の人がエライ人でした。

でも TOP では技や心や、今まで考えもしなかったことをたくさん学びました。・・・何より学んだのは、一つのことに対して、みんな
で支え合って力を合わせて向かっていくことです。

先生にも、M さんにも A さんにもすごく感謝してて・・・、明日は
全部出し切れるようがんばりたいです。」

次は優等生から一転、何度も何度も逃避を繰り返し、開成に行きたい
という一念で覚醒した生え抜きの M くんです。

「ぼくはこの TOP ですごく弱いところをさらけ出すことになりました。
そんな自分がそんな時間があったにも関わらず、今こうして挑
めていることに、キレイごとでなく、導かれているのを感じます。」

M くんは何度も開成に、開成にと繰り返しました。そして私が初回
授業から言い続けた「天」(PROVIDENCE)という言葉も。

「・・・弱い自分だけど、いつも助け船を出してくれました。絶対
にお前は、絶対に開成に行かなきゃいけないんだって。いつも天が
言っていました。

そう思うから、絶対に、算数だってちゃんとやればすごい点が取れ

と思うし、国語だって今までの全てが出し切れると思います。理社だって全部を出し切ったとき必ず開成が自分の中に降りてきてくれると思います。

ぼくは・・・、今までの全てを明日2月1日に開成に賭けて絶対に受かって来たいです。以上です。」

最後は、今や同学年どころかTOPの下級生にまでAさんのようになりたいと敬意の目で見られるまでに成長した努力王、会員番号1番のAさんです。

「私には昔からどうしようもないある一つの欠点がありました。何においても何をやってもどんな習い事にしても全然努力しない。練習の大切さを全然分かっていない。そんなやり方だから、上達しないし、先生の言うことを聞かなくて実力は落ちるばかりでした。

TOPでの毎日は、そんな自分に気づかせてくれる大きなきっかけでした。

初めは算数がダメで入ったのが理由でした。行きたい学校も見定められなくて、何となく通っていました。それでも段々、いろんな人たちがいろんなことをしてそのことに気がつく大切さを教えてくれ

てるんじゃないかなって、感じ始めました。

小5の後期で、先生たちのおかげと、2期生のがんばる姿を見ていたから、先輩たちの想いを感じられるようになりました。

私は中学受験をして本当によかったです。仲間にも恵まれたし、先生にも恵まれたし、私は幸せ者だと思います。

だから絶対に雙葉に受かって最高の6年間を過ごしたいです。」

これは今日その日のビデオを見返し文字起こして、そのまま書いたものです。

誰一人、原稿もないままに放ったその言葉たちは、自然に滲み出た心の声だったんだと思います。

(次回につづく)

2018年1月8日

大井雄之